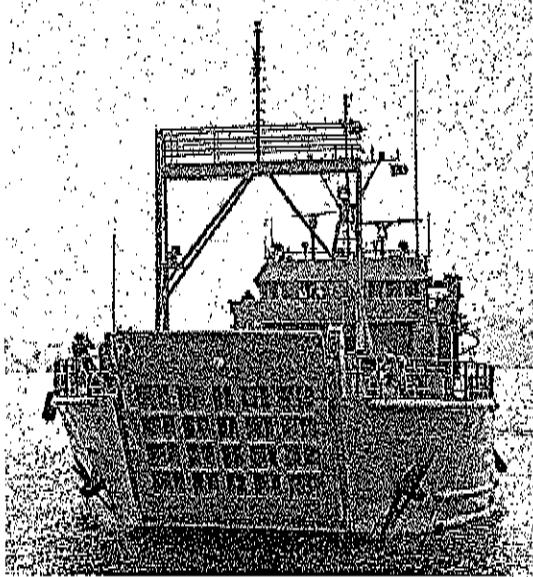


9/19 五夜

日米共同訓練



日米共同訓練「オリエント・シールド」に参加している米陸軍揚陸艇力ラボザ（米国防総省DVIDS）

米揚陸艇部隊が初参加

陸上自衛隊と米陸軍われています。

が北海道と、沖縄など同訓練では、今年春
南西地域で実施する共に横浜ノース・ドック
同訓練「オリエント」。（横浜市）で新編され
シールド23」が14日かた米陸軍揚陸艇（LC
123日までの日程で行U）部隊が初めて参

南西地域へ投入想定

加。同部隊傘下の揚陸
艇が訓練の一環として、沖縄から奄美大島
（鹿児島県）に高機動ロケット砲システムH
IMARS（ハイマー）スや物資などを輸送
しました。同部隊と陸自部隊との間で初の連
携訓練も予定されるなど、南西地域への戦時
投入を想定した訓練に着手しました。

揚陸艇部隊の創設とは明らかです。
は、今年1月の日米安全保障協議委員会（2
プラス2）で合意。米海兵隊の計6400人
中が軍事衝突し、南西が参加する国内最大規

模の「ゾリュート・ドラゴン23」を予定。
を想定し、迅速に部隊・物資を展開可能にすることを目的としています。LCUは港湾が壊されていても接岸可能なことを目的としています。

度概算要求で、南西地域への輸送力強化のため、陸上輸送群」を新編するため、陸上輸送群」を新編するともに、機動舟艇3隻の取得経費を計上。米陸軍揚陸艇部隊との連携を計画している）の具体化と看えます
が、こうした実戦的訓練の強化は南西地域での中国の軍事活動を活性化させ、緊張を高め

同訓練では、日本最西端で、台湾に最も近い与那国島や、今年春に開設した陸上石垣駐屯地などでも実施。石垣には陸自オスプレイが初飛来します。

防衛省も2024年1月の日米2プラス2では、「南西諸島を含む地域での共同訓練訓練は2プラス2合意增加」に合意。一連の訓練は2プラス2合意